

身体運動とその表現性Ⅱ

—はばたき動作を中心に—

西 洋 子 (学習院大学)

研究目的

身体運動をその表現性に着目して捉えるためには、運動の現象面の特性を客観的指標で捉える事と、それが、ある文化や社会の中でどう受け取られるかという事について考える必要がある。

身体運動と表現性の関わりに関しては、特定の対象(感情)が多様な運動で表される場合と、特定の運動が多様な対象(感情)を表す場合との2つの方向性があるが、どちらの場合も、「表現の巧みさ」は、1つの運動の洗練化による「深まり」と、それを自在に操る多様化による「拡がり」とに深く関わる。それらは、概ねその運動に対する習熟の度合を示すともいえる。

本研究は、表現性をもつ身体運動である「はばたき」動作を対象に、この動作の洗練された形態を分析することによりその動作特性を明らかにすることを目的とした。さらに「表現の巧みさ」に向う洗練化の過程を検討するための1つの方法として、この動作の発達段階の検討を試みた。

研究方法

- (1) 洗練された「はばたき」動作の分析
クラシックバレエの作品(瀕死の白鳥・白鳥の湖等)にみられる「はばたき」動作を、特に上肢の手関節と肘関節の動きに着目し、モーションアナライザー(NAC-200AEH)による分析を行なった。
- (2) 「はばたき」動作の発達段階
・3~10歳児47名を対象に、「はばたき」の模倣動作を行なわせVTRに収録した。
・得られた映像から上肢の動きを分類し年齢等との関係を見た。

結果及び考察

クラシックバレエの作品にみられる「はばたき」動作は、その表現内容と深く関わって行なわれるが、特に上肢の動きを中心とした場合、手関節と肘関節の屈曲と伸展の組合せによりつくられる直線的、曲線的経過がその表現性を決定するものと考えられる。

その中でも「瀕死の白鳥」の「出」の部分にみられるような特になだらかな経過をもつ「はばたき」は、この2つの関節の運動方向への屈曲による曲線的なラインの形成と、上肢の最高位、最低位での手関節の切り返しを特性とする。(図1)

2つの関節の屈曲と伸展を含んでいることから3~10歳児を対象として行なった模倣動作の収録の際の「模倣動作」をこの特性を有する「はばたき」とした。

収録した映像から、表1に示すTYPE1~4までのものが観察され、これに「模倣動作」として行なったTYPE5を加えて5つのカテゴリーによる分類を行い、年齢による各カテゴリーの人数をみたものが表2である。

結果として、年齢に応じて、上肢の動きが直線的-手関節屈曲-肘関節の内転時の屈曲の順をおって発達する傾向が認められ、これが「はばたき」動作の1つの洗練化の過程と推察された。

図1 クラシックバレエにみられる「はばたき」「瀕死の白鳥」(マヤ・プリセツカヤ)の「出」の部分

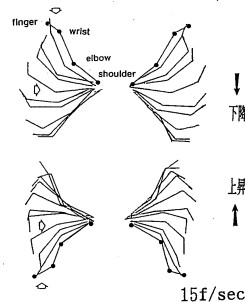


表1 「はばたき」動作の発達における5TYPE
wrist in-手関節の掌屈 wrist out-背屈
elbow in-内転時の屈曲 elbow out-外転時の屈曲

category	wrist		elbow	
	in	out	in	out
TYPE1	×	×	×	×
TYPE2	○	×	×	×
TYPE3	○	○	×	×
TYPE4	○	○	○	×
TYPE5	○	○	○	○

表2 各年齢にみられる5つのTYPE

category	3歳	4	5	6	7	8	9	10
TYPE1	●	●●●○	○○○○					
TYPE2		●●●●	●●●○	●●●○	●●●○			
TYPE3			●●●●	●●●○	●●●○	●●●○	●●●○	
TYPE4					●	●	●	●●●
TYPE5								

● 女児
○ 男児